

リシリヒナゲシ、チシマヒナゲシそして栽培ヒナゲシ

札幌市 高橋 英樹

標題にある北海道とその周辺地域で見られる高山性のケシ属 *Papaver* 植物 3 種類の類縁関係や保全状況については、必ずしも一般に理解されていない。そこで現在までに分かっていることとこれからの課題をまとめてみた。

本属が含まれるケシ科 *Papaveraceae* は 40-43 属 770-820 種を含む中程度の科で、その内ケシ属はキケマン属 *Corydalis* (約 400 種) に続く大属で 80-100 種が含まれている (福原 2016, Judd et al. 2008, Mabberley 2008,.)。

本稿で取り上げるリシリヒナゲシとチシマヒナゲシは北海道周辺に局所的に分布する種群で、ユーラシア東部の高山～極地に広く分布するシベリアヒナゲシ (*P. nudicaule*、アイスランドポピー) に類縁があるが、果実の形がより球形になる点で長楕円形であるシベリアヒナゲシ類とは異なる (Grey-Wilson 1993)。サハリンのシスカヒナゲシや千島列島北部のアライトヒナゲシはシベリアヒナゲシ類に入るようだ (高橋 2015a)。

リシリヒナゲシ *P. fauriei* (Fedde) Fedde ex Miyabe et Tatew. (Fedde 1909, Miyabe and Tatewaki 1936, 米倉 2012) は利尻島の利尻山山頂付近に、チシマヒナゲシ *P. miyabeana* Tatew. (Miyabe and Tatewaki 1935, 1936, 高橋 2015a) は千島列島の南～中部 (択捉島・ウルップ島・シムシル島・マツワ島) に分布し、各々の地域の固

有種とされてきた。但しいずれも火山性の砂礫地に生える直根性の多年草で形態的によく似ていることから、以下のような見解が表明されている。

清水 (1983) : (リシリヒナゲシは) 中部千島のチシマヒナゲシやサハリン南部に分布するカラフトヒナゲシに極めてよく似ており、花の大きさや葉の切れ込みに多少の相違が認められるが、同一種と思われる。

高橋 (2003) : 千島列島に分布するチシマヒナゲシは、花卉が長さ 2.2cm、幅 1.5cm ほど、果実は長さ 1.2cm、幅 1cm ほどあり、リシリヒナゲシより全体に大きい、明瞭な差はなく、同一種との見解もある。

高橋 (2015a) : (チシマヒナゲシは) 花卉は長さ 2.0-2.5cm で黄色。果実は長さ幅共に約 1cm の円形。本種に近縁で利尻島固有のリシリヒナゲシは花卉の長さが 1.0-2.0cm で黄色、果実は長さ 0.8-1.0cm、幅 0.6-0.9cm でやや楕円形。ただし変異は連続的で、リシリヒナゲシとチシマヒナゲシは変種程度の差しかない、という見方もできる。

以上より、両種が同一種か否かについては長く問題となっている。またチシマヒナゲシには学名の問題(ここでは詳述しない)もあり、いずれにしても 2 種についての分類学的再検討が急務である。

一方、最近になって利尻島の市街地で観光用に栽培されていた栽培ヒナゲシ (栽培